

第 13 章

文献案内

——レーガン政権期の政治・軍事を中心に

進藤 裕之

はじめに

本書は、1980年代のアメリカの安全保障・軍事の歴史に関心がある方々を対象として編まれた論文集であるので、さらにその分野の理解を深めたいと思われる読者には、収録された個々の論文の注釈等に記された文献を参照されたい。それらの文献に加えて、1980年代のアメリカの安全保障・軍事の全般的な研究として、以下にいくつかの代表的な文献を紹介する。本書のテーマに関わる文献を網羅的に取り上げているわけではないが、特にこれから1980年代のアメリカの安全保障・軍事に関する知見を深めたい読者の参考になることを期待している。なお、和文文献についての情報は比較的容易に入手できると思われるので、本章ではロナルド・レーガン（Ronald Reagan）政権および同政権の外交・国防政策を取り上げた洋書のみを対象として、特に重要な必読文献に絞って紹介したい。

1. 回想録

多くの歴代大統領と同様に、レーガン大統領も回想録を出版しており¹、事後的に書かれたものとしての限界があるものの、自らの政権を本人がどのように回顧したのかが窺えて興味深い。一次史料的な価値がある出版物として、レーガンの日記がある²。レーガン大統領図書館に所蔵されている日記の原典を、歴代大統領の研究で著名なダグラス・ブリンクリー（Douglas Brinkley）が編さんしたものであり、1981年1月26日から1989年1月20日までの記入を適宜抜粋した内容である。

レーガン政権の主要な閣僚も、それぞれ回想録を出版した。安全保障政策に関連したものとしては、ジョージ・シュルツ（George Shultz）国務長官³、キャスパー・ワインバーガー（Caspar Weinberger）国防長官のほか⁴、海軍長官を務めたジョン・レーマン（John Lehman）

¹ Ronald Reagan, *Ronald Reagan: An American Life* (Simon & Schuster, 1990).

² Ronald Reagan (Douglas Brinkley, ed.) *The Reagan Diaries* (HarperCollins, 2007).

³ George P. Shultz, *Turmoil and Triumph: My Years as Secretary of State* (Charles Scribner's Sons, 1993).

⁴ Caspar Weinberger, *Fighting for Peace: Seven Critical Years in the Pentagon* (Warner Books, 1990).

も回想録を残している⁵。また、コリン・パウエル（Colin Powell）の回想録は⁶、ジョージ・H・W・ブッシュ（George H.W. Bush）政権で統合参謀本部議長を務めた時期の記述が最も注目されがちであるが、レーガン政権で 1987 年から 1989 年にかけて国家安全保障担当補佐官を務めた時期の内容も興味深い。

2. 評伝・人物研究

レーガンの人物研究は順次、彼の任期満了による大統領退任後から間もなく発表され、レーガン政権の研究において欠かせない資料である。代表的なものとして、ルー・キャノン（Lou Cannon）による著作が挙げられよう⁷。キャノンは長年レーガンを担当したジャーナリストであり、同書は軍事を含むレーガンの対外政策の他に、内政についても詳細に取り上げた力作である。なお、1980 年代を対象としたものではないが、キャノンはカリフォルニア州知事在任中のレーガン、つまり 1967 年から 1975 年の同氏を取り上げた作品も発表しており、レーガンの政治思想や対外認識が形成された過程を知る上で非常に有用である⁸。最近では、軍事史家のマックス・ブート（Max Boot）による著作が発表され⁹、高い評価を得ている。

また、レーガンの側近を取り上げた研究も相次いで出版されており、例えばレーガン政権の第 1 期において大統領首席補佐官を、第 2 期において財務長官を務めたジェイムズ・ベーカー（James Baker）を取り上げた、有力なジャーナリストの手による共著がある¹⁰。側近の視点から見たレーガンの意思決定や政策志向を理解する上で、同書をはじめとする文献は大いに参考になるだろう。

3. レーガン政権期の対外政策研究

レーガンの対外政策に焦点を当てた著作も順次発表されている。例えば、レーガンの外交全般を射程に収めたものとして、著名なジャーナリストであるドン・オーバードーファー（Don Oberdorfer）が 1990 年代初頭に上梓した作品が挙げられる¹¹。同書を筆頭に、レー

⁵ John F. Lehman, Jr, *Command of the Seas* (Charles Scribner's Sons, 1993).

⁶ Colin Powell, with Joseph Persico, *My American Journey* (Random House, 1995).

⁷ Lou Cannon, *President Reagan: The Role of a Lifetime* (Touchstone/Simon and Schuster, 1991).

⁸ Lou Cannon, *Governor Reagan: His Rise to Power* (Public Affairs, 2003).

⁹ Max Boot, *Reagan: His Life and Legend* (Liveright, 2024).

¹⁰ Peter Baker and Susan Glasser, *The Man Who Ran Washington: The Life and Times of James A. Baker III* (Doubleday, 2020).

¹¹ Don Oberdorfer, *The Turn, from Cold War to the New Era: The United States and the Soviet Union, 1983-1990* (Poseidon Press, 1991).

ガンがその対ソ姿勢を在任中に転換したことは大きな論点であり続けてきたが、一方で転換の過程や背景に着目した研究も登場している¹²。レーガンの国防政策、特に軍拡に焦点を当てた研究も発表されており、例えばアメリカ政治・軍事史を専門とするダニエル・ワールズ (Daniel Wirls) の著作が高く評価されている¹³。

米ソ冷戦が収束した過程の視点から、レーガンの位置付けや役割を取り上げた作品も数多く発表されている。冷戦末期に関する詳細な文献案内はその分野の専門家に譲るが、例えば冷戦史研究の第一人者であるジョン・ルイス・ギャディス (John Lewis Gaddis) の研究はその嚆矢であろう¹⁴。また、政治学者・歴史学者であると同時に豊富な実務経験を有するレイモンド・ガーソフ (Raymond Garthoff) による研究は¹⁵、米ソ関係がデタントから再び対立に転向する過程を詳細に分析したものとして名声を博している。

4. 1980年代のアメリカの軍事行動を扱う諸研究

アメリカが1980年代に実行した個別の軍事行動については、その前後の時代に比べて小規模のものであったためもあって、個別の紛争を取り上げた研究はあまり見当たらないが、個々の地域に対するアメリカの外交および国防政策を分析した著作の中で検討されることが多い。例えば、1980年代のアメリカの中東政策を分析した研究として、ピーター・ハーン (Peter Hahn) による一連の研究がある¹⁶。ハーンの研究においては、アメリカの中東政策全般の他、レバノン介入やリビアへの空爆、イスラム原理主義の脅威の台頭に対するアメリカの初期の対応など、個別の争点についても綿密に考察されている。

また、いくつかの紛争については個別の著作も散見される。中でもグレナダ侵攻作戦の背景と実行について、フィリップ・クキエルスキ (Philip Kukielski) の著作は¹⁷、基本的に事実関係を中心としているものの、手際よく整理されており、同作戦の理解に欠かせない文献である。

¹² Beth A. Fisher, *The Reagan Reversal: Foreign Policy and the End of the Cold War* (University of Missouri Press, 2000); James Mann, *The Rebellion of Ronald Reagan: A History of the End of the Cold War* (Viking Penguin, 2009).

¹³ Daniel Wirls, *Buildup: The Politics of Defense in the Reagan Era* (Cornell University Press, 1992).

¹⁴ John Lewis Gaddis, *The United States and the End of the Cold War: Implications, Reconsiderations, Provocations* (Oxford University Press, 1992).

¹⁵ Raymond L. Garthoff, *Détente and Confrontation: American-Soviet Relations from Nixon to Reagan*, Revised Edition (The Brookings Institution, 1994).

¹⁶ Peter L. Hahn, *Crisis and Crossfire: The United States and the Middle East Since 1945* (Potomac Books, 2005); Peter L. Hahn, *Missions Accomplished?: The United States and Iraq Since World War I* (Oxford University Press, 2011).

¹⁷ Philip Kukielski, *The U.S. Invasion of Grenada: Legacy of a Flawed Victory* (McFarland and Inc., 2019)

